

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 ブルーライン

②事業者情報

名称： 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 肢体機能訓練課	種別： 自立訓練(機能訓練)
代表者氏名： 渡邊 雅浩	定員(利用人数)： 90 (34) 名
所在地： 〒 359-8555 埼玉県所沢市並木4-1	TEL 04-2995-3100

③総評

◇特に評価の高い点

(1) 【個別支援計画】

個別支援計画は、年4回の評価・見直しを行なう仕組みとなっており、その際は組織内で調整会議・調整決定会議が行なわれ内容の協議が進められています。又、必要に応じて部門を横断したカンファレンスも実施されています。内容の変更等に付いては、手順に従い定期的な検討の他、適宜変更が行なわれるフレキシブルな仕組みとなっています。

(2) 【施設修了後のケア】

国立の施設と云う事から地方からの利用者も多く、この施設を修了して自分の地域に戻る事になります。依って、地元地域での生活への移行に際しての課題等を把握し、具体的な生活環境への配慮や支援を行う為に、相談支援も活用しながら当該地域を訪問して関係機関等と連携・協力する事も実施されています。

◇特にコメントを要する点

(1) 【サービスの質の向上】

サービスの質の向上に結び付く具体的な取組がされておらず、課題を抽出し改善策を策定する様な取組はされていません。質の向上とは、利用者の為に福祉施設が負わなくてはならない義務であるとも言われていますが、満足度調査も行なわれず、家族会や利用者会も設置されていない現状からは、何処から改善の糸口を探ってくるのか、「利用者の為のサービスの質の向上」とは何なのか、熟考する事が喫緊の課題と思われれます。

(2) 【福祉ニーズ】

国立の施設と云う事で、地域(市・県)との関わりだけから福祉ニーズを把握する事は実施されていません。しかしながら、中期計画には「2. 障害福祉サービスの提供 (2) 質の高い福祉サービスの提供 これまで実施してきたサービスの実績、効果等を検証すると共に地域における障害福祉サービスの動向を考慮し、国立施設にふさわしいサービスや先進的なサービスの実施に向けた取組みを進める」と地域との関わりも謳われています。年度毎の評点もH27年からずっと3.0以上となっており、成果が出ていると云う評価になっていますが、この点に付いても、何をどの様に展開して行くのか、具体的な方策の策定が必要と感じます。

④第三者評価結果に対する事業者のコメント

主に頸髄損傷の方への自立訓練(機能訓練)サービス提供を行っています。
平成28年7月に伊東重度障害者センターを統合し3年目を迎え、今回初の第三者評価を受けまし

た。

当施設では、利用者の満足向上を図るため、「終了時アンケート（利用者満足度調査）」や職員の業務モニタリングを実施しています。今回の第三者評価結果において、利用当事者が現状に満足していない、職員の業務に対する知識や理解不足が確認できましたので、職員に対する研修や自己評価の実施を計画に進め、利用者主体の支援の向上と運営方針や組織目標に沿ったミッションの遂行に取り組むこととします。

⑤各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙